

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・一層の基礎・基本の定着を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを推進するための授業づくりを図る。	中間評価		最終評価	
		・全校体制でワークシートを活用した読解力の学習を行う。 ・ICT 機器活用のスキルアップを図り、e ライブラリや動画等を活用した学習を行う。 ・落合二中言語活動モデルを活用するための備品を整備し、話し合い活動を充実させる。 ・生徒自身が ICT を活用し、資料提示やプレゼンテーションができる環境を整える。				

■ 教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、全ての項目において全国平均を上回るなど、概ね良好な状況であった。特に説明文と物語文の読解については平均値を大きく上回っている。一方で、漢字や文法、古文など「言語事項」や、発表・作文などの表現に関する項目については、読解に比べ多少に苦手が見られた。</p> <p><b>学</b> 生徒の観察から、授業中の取り組みについてはおおむね良好で、特に「読むこと」の活動については前向きな生徒が多い。一方で、習慣的に学習を行っている生徒が少なく、知識を身につける活動が苦手な生徒が多い。また書く活動、話す活動については苦手意識をもつ生徒も少なくない。</p>	<p><b>調</b> 漢字の読み書き・文法・古文に関する知識など、「言語事項」が定着していない生徒が多い。</p> <p><b>調</b> 「書くこと」「話すこと」に関する項目など、自己を表現することに苦手をもつ生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 漢字や文法、古典の知識などの学習に習慣的に取り組まない生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」に苦手意識をもたない生徒であっても、技術としてそれらの項目を身につけていないため、自分の記述や発言の内容それぞれの視点から客観的に評価し、推敲できない生徒が多い。</p>	<p><b>調</b> 言語事項における知識を指導する際は、授業中や休業明けに小テストや漢字テストを行ったり、宿題を日常的に出したりするなど、生徒に家庭学習を定着させることで課題を解決していく。</p> <p><b>調</b> 対話的な授業形態を増やすことにより、生徒の表現の機会を多く設ける工夫していく。</p> <p><b>学</b> 「書くこと」「話すこと」に関する力を「ブレインストーミング」などを活用して指導していく。</p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>
社会	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、第2学年は全ての観点で全国平均を上回り、おおむね良好な状況であった。また、記述形式の問題の正答率が高くなっている。第3学年は目標値を若干下回っており、特に学習した知識を活用させる点に課題が見られた。</p> <p><b>学</b> 多くの生徒が授業には意欲的に取り組んでおり、社会的現象に関する因果関係をまずは自分なりに考えるという姿勢がみられる。一方で、知識の定着や既習事項の活用には課題がある。</p>	<p><b>調</b> 因果関係や自然環境に着目して社会的現象を捉えることを苦手とする生徒が多い。</p> <p><b>調</b> 様々な知識を関連させながら思考していくことを苦手とする生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 資料から得られた情報や自分の考えを、うまく書き表すことができない生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 知識を定着させ、活用させることに課題がある。</p>	<p><b>調</b> 地図や資料から読み取れることをまとめたり、「なぜ」「どうなった」といった因果関係を考えたりする学習を積極的に取り入れ、知識の暗記に終始しない学習活動を行う。</p> <p><b>学</b> 以前学習した内容とどのように関連するのか考えさせながら、既習事項を活用した学習ができるようにする。また、示された課題に対しどのように答えればよいか、指導を行う。</p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>
数学	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、第2学年は全ての項目において全国・区平均を上回り、おおむね良好であった。一方、第3学年は全ての項目において全国・区平均を下回っている。内容別に見ると、特に第2学年は「平面図形」、第3学年は「図形の性質」の正答率が低かった。</p> <p><b>学</b> 授業には意欲をもって取り組み、答えに至るまでの途中式や自分の考えを丁寧に書く習慣が身に付いている生徒が多い。一方で、基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</p>	<p><b>調</b> 第3学年は、特に「数学的な見方や考え方」の正答率が低い。既習事項を活用して、発展的な学習内容に対する思考力を身に付けさせることが課題である。</p> <p><b>調</b> 図形に対して苦手意識をもつ生徒が多い。ICT 機器を用いて、生徒が図形に対して理解を深められる授業方法を検討していくことが必要である。</p> <p><b>学</b> 基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒について、家庭学習で学習内容を復習する習慣が身に付いていないことに課題が見られる。</p>	<p><b>調</b> 特に課題のある領域「連立方程式」は、演習を多く取り入れて計算力を確実に定着させるとともに、多様な課題を取り上げて既習事項の確認を行い、多くの解決方法を示す。また、「図形の性質」に関しては、ICT機器を積極的に取り入れ、視覚的にイメージしやすい授業を行う。</p> <p><b>調</b> 生徒が文章題に対して数学的な表現を用いて説明し合い、解決できるように話し合い活動を充実させる。</p> <p><b>学</b> 少人数授業での教え合いや学び合い学習を通して、数学に対する関心・意欲を高めたり、思考力を深めたりする場面を多く取り入れる。また、単元テストや小テストを実施し、苦手とする内容のやり直しを徹底して行わせる。</p> <p><b>学</b> 家庭学習において、タブレット教材の積極的な活用を呼び掛けていく。</p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>

理科	<p><b>調</b> 新宿区学力到達度調査では、2年生は全国平均を上回ったが、3年生は僅かに全国平均を下回った。観点別正答率を見ても、2・3年生とも「観察・実験の技能」の正答率が低かった。</p> <p><b>学</b> 2・3年生とも、落ち着いた授業態度で学習に臨んでいる。また、授業ノートなども丁寧に取り組んでいる。一方、理科の内容に積極的に取り組む生徒と感心が低い生徒の間に差が出ている。</p>	<p><b>調</b> 観点別の「観察・実験の技能」に課題が見られる。また、実験操作などの正しい知識を身につけるところにも課題が見られる。</p> <p><b>学</b> 試験問題を解くというところや、知識を定着させるところに、課題がある。</p>	<p><b>調</b> 前年度に引き続き、観察・実験前に、目的をしっかりと説明し、結果に対しての予想を立てて行う。また、実験手順を確認する時間をとることで、実験操作を正しく理解することができるようにする。</p> <p><b>学</b> 授業での問題演習や小テストなどを行っていくが、家庭学習で行う項目を具体的に示し、期限を決めて宿題やレポートとして提出させる。家庭学習を定着させることで、知識の定着を図っていく。</p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>
英語	<p><b>調</b> 新宿区学力到達度調査では、どの観点も全国平均を上回っていた。しかし、表現の課題、その中でも特に正確に文章で表現する問題に課題が見られた。</p> <p><b>学</b> 1年間語彙の指導を繰り返し行ってきたことで、コミュニケーションへの意欲が高まり、着実に力をつけてきている。そのため、コミュニケーション活動は今後も続けていく。</p>	<p><b>調</b> 表現の能力に課題が見られた。表現しようとする意欲は高いものの、正確性に欠ける部分があった。</p> <p><b>学</b> 学力調査と同様、文章表現では正確性において課題が見られた。</p> <p><b>学</b> 英語はできないと決めつけてしまっている生徒も少数だが存在する。</p>	<p><b>調</b> 今年度は英作文の課題に多く取り組ませ、学年全体で多かったミスなどをフィードバックすることで、正確に表現できる力を身に付けさせる指導を行っていく。</p> <p><b>学</b> 3文日記などの課題を与え、書く力を高めていく指導を行っていくなどライティングに力を入れて授業を行う。また、それを使ったスピーチ活動などを行い、文章の正確さを高める。</p> <p><b>学</b> 成功体験を積ませるように課題のレベルを考え、簡単なものから授業に取り入れ、スモールステップで課題を達成できるようにする。</p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>	<p><b>調</b></p> <p><b>学</b></p>

**調**…区学力定着度調査の結果から見える学習状況

**学**…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。